

令和2年度 第2回 川崎市総合教育会議

かわさきGIGAスクール構想の 取組について

令和3年3月22日(月)

1 取組の進捗状況

1 取組の進捗状況

◆かわさきGIGAスクール構想の主な取組

対象	取組	進捗状況
学校	1人1台PCの導入、校内LAN環境の整備	令和3年3月下旬配備完了
	研修の実施	令和2年12月～随時開催
	教員向けハンドブック「はじめようかわさきGIGAスクール構想」の作成	令和3年3月学校に配布
	外部人材の活用等体制整備	事務局の体制拡充及びICT支援員の活用
	各校でGIGAスクール構想推進教師(GSL)の選出	令和2年9月選出依頼し、順次選出
	学校と教育委員会で情報共有できるサイトの開設	令和3年2月開設
広報	①教育委員会事務局HPでの周知	令和2年11月～随時更新
	②教育だよりかわさきへの掲載	令和2年11月号、令和3年2月号
	③動画の作成・配信	令和3年3月～随時 ・川崎駅前デジタルサイネージ ・アゼリアビジョン ・川崎市YouTubeチャンネル等

教員研修の様子



約1,000名
の教職員が
受講



12月から2月にかけて、各
学校数名ずつ、全ての学
校の教職員が集まり、
Google for Educationの研
修を受講したときの様子。

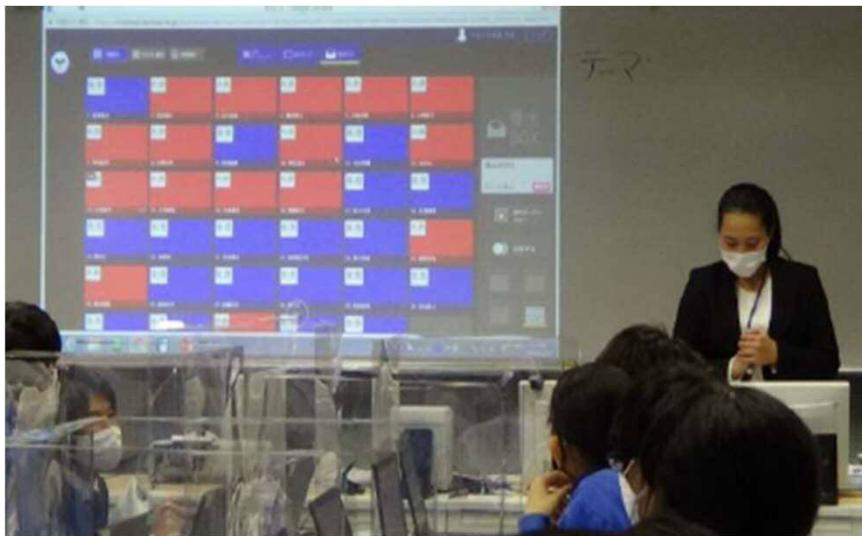


授業の様子



アプリを使って協働的な学習を実施

1人1台のGIGA端末を活用した
授業の様子



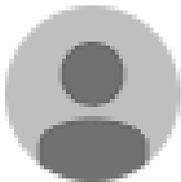
情報共有の様子

GIGAスクール構想推進教師（GSL）

令和3年4月末までの情報交換

※総合教育センターを含む225人全員とのやりとりが可能

田中
3月3日

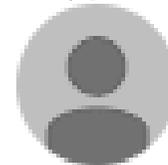


〇〇中学校の田中です。
避難訓練用の資料・動画を作りましたので共有します。よろしければご活用ください。（ファイル）

スクロールして
過去のやりとりも
確認できる

▲▲中学校の佐藤です。
ありがとうございます。ちょうどこういうものが欲しかったので活用させていただきます。

佐藤
3月4日

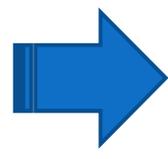


2 かわさき GIGA スクール構想 により目指すもの

2. かわさきGIGAスクール構想により目指すもの

◆社会環境の変化

- ・ 予測困難で不確実性が増す社会
- ・ AIの発達によって、多くの職業がなくなる可能性がある(オックスフォード大学の調査結果)

 予測困難な社会に生きていく子どもたちに必要な資質・能力とは？

予測困難な社会に求められる資質・能力

◆学習指導要領改訂の考え方

- ・学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養
- ・未知の状況にも対応できる思考力・判断力・
表現力等の育成
- ・生きて働く知識・技能の習得

予測困難な社会に求められる資質・能力

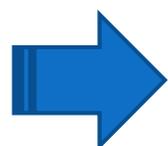
◆中教審答申

・一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要

※「令和の日本型学校教育」の構築を目指して

～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）

令和3年1月26日中央教育審議会



かわさき教育プランやかわさきGIGAスクール構想の取組を推進する

かわさき教育プラン

◆基本目標

・自主・自立

変化の激しい社会の中で、誰もが多様な個性、能力を伸ばし、充実した人生を主体的に切り拓いていくことができるよう、将来に向けた社会的自立に必要な能力・態度を培うこと

・共生・協働

個人や社会の多様性を尊重し、それぞれの強みを生かし、ともに支え、高め合える社会をめざし、共生・協働の精神を育むこと

目指す姿 ～未来像～

◆かわさきGIGAスクール構想を通じて実現したい教育の姿

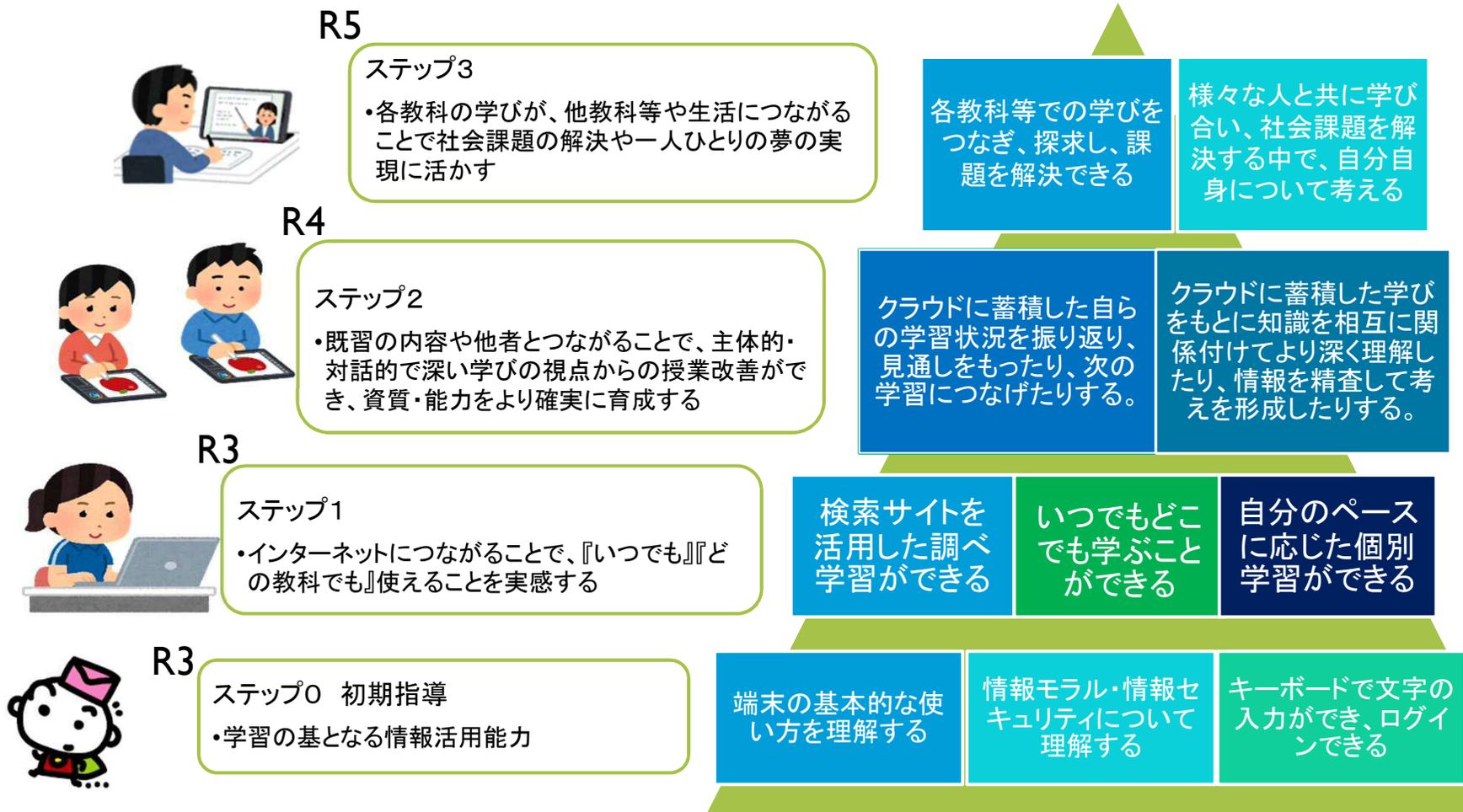
- ① ICTを効果的に活用して、教育活動を各校で実践
- ② 児童生徒が主体的な学びにICTを活用している
- ③ 教員がICTを活用し、意欲的に授業改善に取り組んでいる
- ④ データを活用し、教育施策に反映する仕組みの構築



かわさきGIGAスクール構想の取組により
「未来社会の創り手」を育んでいく

かわさきGIGAスクール構想

◆当面の取組における考え方



今後必要となる新たな視点①

◆短期的な視点(R2～R4)

～ツールとしてのICT活用や人材育成～

●主な取組

- ①ICTを活用するための環境整備
- ②迅速かつ自由に授業実践を共有できるツールの導入
- ③時間と場所の制約を受けない新たな研修ツールの導入
- ④教員の意識・意見を迅速に把握するツールの導入
- ⑤教員が教育活動に集中するためのサポート体制の整備
- ⑥ドリルソフトを活用した習熟度に応じた個別学習の充実
- ⑦学習の理解度や進度をリアルタイムで把握し、教員同士で共有
- ⑧新時代教育をリードし、学校をサポートする体制強化
- ⑨教員の意欲を引き出す柔軟な運用ルール
- ⑩新時代の学校マネジメントを実践できる管理職の養成

今後必要となる新たな視点②

◆中期的な視点(R5～R7)

～各学校におけるステップアップや取組の強化～

●主な取組（今後検討する取組も含む）

- ①ICTの良さを生かした主体的な学習及び協働学習のさらなる充実
- ②ICTを活用した不登校児童生徒への支援充実
- ③デジタル教科書等によるもっとわかる授業
- ④ICTを活用した教職員の業務効率化
- ⑤学習状況調査の充実(CBT導入(※)の検討)

(※) Computer Based Testing

今後必要となる新たな視点③

◆長期的な視点(R8～)

～データの蓄積と活用～

●主な取組（今後検討する取組も含む）

- ・エビデンスに基づく効果的な教育を実践するためのデータ活用の仕組みの構築



新たな視点による取組を進め、社会動向や技術の進歩に的確に対応し、公正に個別最適化された学びの実現を目指す